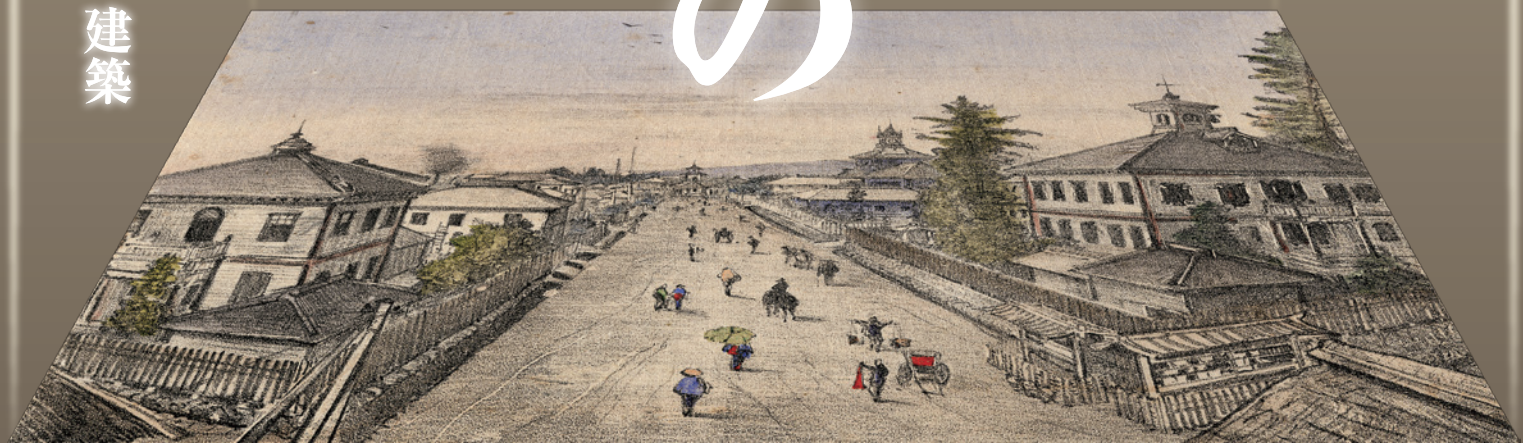




ⅡシンポジウムⅡ

近代都市の 相貌

明治山形の
写真・絵画・建築



(上) 菊池新学《明治14年撮影の山形市街》山形大学附属博物館蔵 (下) 高橋由一《山形県庁の図》(『三島県令道路改修記念画帖』所収) 山形大学附属博物館蔵

2016年

10/16 日 午後1時～5時

事前申込不要・参加無料

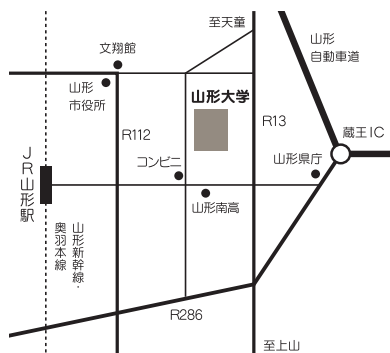
山形大学小白川キャンパス
人文学部1号館103教室

〒990-8560 山形市小白川町1-4-12

TEL 023-628-4203

E-mail jisoumu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

交通 JR山形駅前から「県庁行き」バス乗車、
案内「山形南高前」下車、徒歩5分



基調講演

小林 俊介 山形大学地域教育文化学部教授

“可視化”された近代山形

— 高橋由一・源吉の絵画／

菊池新学・清、照井正太郎の写真—

パネル発表

岡塚 章子 東京都江戸東京博物館学芸員

菊池新学の師 — 横山松三郎と清水東谷 —

松隈 章 竹中工務店設計本部設計企画部

記録された近代・山形と都市を記憶する試み
— 時空を繋ぐ —

報告

白幡 菜穂子 山形美術館学芸員

研究ノート：
菊池新学撮影「県庁前通り」について

パネルディスカッション司会

森岡 卓司 山形大学人文学部准教授

〔主催〕山形大学人文学部附属映像文化研究所

科学研究費学術研究助成基金助成金・基盤研究(B)「東北地方における写真文化の形成過程と視覚資料の調査研究」(研究代表者: 森岡卓司、課題番号: 16H0336402)

近代都市の相貌

明治山形の
写真・絵画・建築

基調講演

”可視化”された近代山形

— 高橋由一・源吉の絵画／
菊池新学・清・照井正太郎の写真 —

小林 俊介

筑波大学大学院博士課程芸術学研究科修了。博士(芸術学)。山形大学地域教育文化学部教授。専門は近代日本美術史および絵画実技。著書に『難波田龍起―抽象の生成―』(美術出版社、一九九八年)、『昭和期美術展覧会の研究(共著、東京文化財研究所、二〇〇九年)』、『帝展改組／新体制と美術』(編著、ゆまに書房、二〇一二年)ほか。二〇一六年「高橋源吉研究」で第二三回鹿島美術財団賞を受賞。

岡塚 章子

筑波大学大学院人間総合科学研究科博士課程修了。博士(芸術学)。東京都写真美術館、東京都庭園美術館を経て、現在、東京都江戸東京博物館学芸員。主要展覧会企画に「写された国宝」展(二〇〇〇年)、「庭園植物記」展(二〇〇五年)、「建築の記憶」展(二〇〇八年)、「二四〇年前の江戸城を撮った男 横山松三郎」展(二〇一一年)、「浮世絵から写真へ―視覚の文明開化―」展(二〇一五年)など。横山松三郎「展」で二〇一二年日本写真協会賞学芸賞、「浮世絵から写真へ」展図録掲載論文で二〇一五年美連協カテゴリー論文賞優秀論文賞を受賞。

パネル発表

菊池新学の師

— 横山松三郎と清水東谷 —

パネル発表

記録された近代・山形と
都市を記憶する試み

— 時空を繋ぐ —

松隈 章

北海道大学建築工学科卒業後竹中工務店入社。大阪本店設計部、本社・企画室、本社・地球環境室などを経て二〇一〇年より本社設計本部設計企画部副部長。設計業務の傍ら近代建築の保存活用や公益財団法人ギャラリーA4での「一四〇人の東京駅」などの企画展をはじめとする数多くの建築展に従事。主な著書に『聴竹居 藤井厚二の木造モダニズム建築』(平凡社コナックス、二〇一五年)、「一六人の建築家―竹中工務店設計部の源流」(共著、井上書院、二〇一〇年)など。保存・修復・再生に関わった「旧ジェームス邸」が建築学会作品選集とBELCA賞受賞。

白幡 菜穂子

東北大学文学研究科博士課程前期修了。山形大学附属博物館、山形県郷土館文翔館を経て、二〇一四年より山形美術館学芸員。主に企画した展覧会は「毒地社とその時代展」(二〇〇九年)、「高山辰雄と日本画五山展」(二〇一五年)など。

報告

研究ノート：菊池新学撮影

「県庁前通り」について

本年(二〇一六年)は、明治九年(一八七六年)に統一山形が誕生して一四〇年の記念の年にあたります。初代山形県令に就任した三島通庸は、県庁舎や病院、学校などの公共施設を建造するだけでなく、道路や橋梁などの交通網の整備を積極的に推し進めたことにより、山形の近代化に大きな貢献を果たしました。とりわけ、県庁を核とする山形市の中心地区は、数々の洋風建築が立ち並び都市景観によって一新され、英国の旅行家イザベラ・バードをして「県庁、裁判所、そして進歩した付属学校をもつ師範学校、それから警察署はいずれもりっぱな道路と町の繁栄にふさわしく調和している」と言わしめるほどの近代的眺望を形づくるにいたりました。

治九年に県令三島通庸から「御用写真家」に指名され、県内に新造された建築物、橋梁、道路、トンネルなどを写真撮影しています。また画家の高橋由一は、当時導入されたばかりの西洋絵画を習得し、やはり三島の命により、石版画集『三県道路写生帖』を完成させました。「近代都市山形」のイメージが、西洋伝来の新たな技術により、清新な姿で記録されたのです。

山形大学人文学部附属映像文化研究所の主催により開催される本シンポジウムは、明治期山形の近代化を、写真や絵画、あるいはそこに記録された建築などを通じて検証する試みです。地方都市の相貌が形成される過程において、視覚文化が果たした重要な役割がそこから浮かび上がってくるのではないのでしょうか。

なお、本シンポジウムは、山形美術館が今秋に予定している展覧会「統一山形誕生一四〇年 絵画と写真にみる山形の近代」との連携企画です。

関連
開催

展覧会「統一山形誕生一四〇年 絵画と写真にみる山形の近代」

二〇一六年一〇月一四日(金)～一三〇日(日)

【会場】山形美術館(山形市大手町一六三) 【主催】山形美術館、山形新聞・山形放送、山形県
【問合せ】電話〇二三・一六二・二二九〇／ファックス〇二三・一六二・二二四五